



《邂逅の郷・ひろしま江波山桜2022・爛漫散華(未完)》2022年

遺されしものへ 木下 和展

KINOSHITA Kazuo

2024年9月21日[土]—11月24日[日]

前期 9月21日[土] — 10月27日[日]

後期 10月29日[火] — 11月24日[日]

[開館時間]11時~17時(入館は16時30分まで)

[休館日]月曜日(祝日9月23日、10月14日、11月4日は開館)

[入場料]一般300(240)円、学生150(120)円、中学生以下無料

※()内は10名以上の団体料金

[主催]公益財団法人泉美術館

公益財団法人

泉美術館

〒733-0833

広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階

TEL:082-276-2600 FAX:082-276-2612

<https://www.izumi-museum.jp/>

《満天の星と月を仰ぐラムセスII世像》2018年



遺されしものへ 木下 和展

K I N O S H I T A K a z z ú

このたび、泉美術館では、2023年4月に逝去した洋画家 木下 和の遺作展を開催いたします。

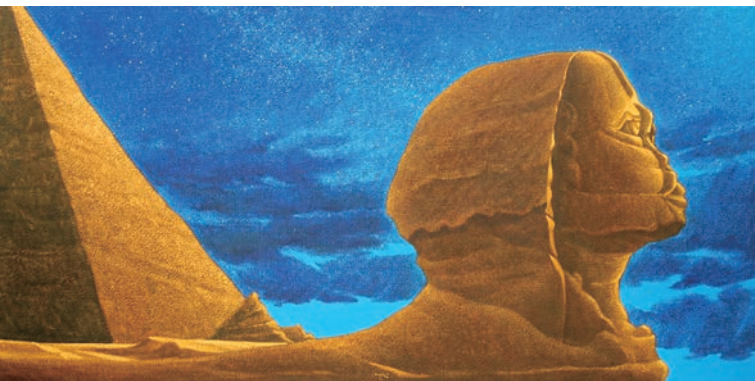
木下は、1942年広島市江波に生まれ、広島大学教育学部美術科で油絵を学んだ後、新制作協会に所属。新制作展新作家賞、ヒロシマアートグラントなど数々の賞を受賞。画業に励むとともに、70歳まで教壇に立ち、後進の育成にも尽力してきました。

代表的なモチーフとなった「山帰来」、50代で出会った悠久の「エジプト」、そして、晩年の被爆桜「江波山桜」まで、「自然と時空との邂逅」をテーマに、壮大かつ緻密な構図と力強いタッチで描き続けた作品は、多くの人々を魅了してきました。

また、本展では、午年生れの同い年であることから結成した「羆会」で、会派を超えて画業に切磋琢磨してきた田谷行平、三原捷宏の作品、そして、妻・木下坦江の作品も合わせて展覧いたします。



1



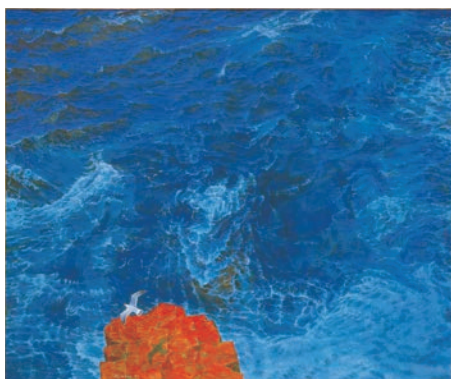
2



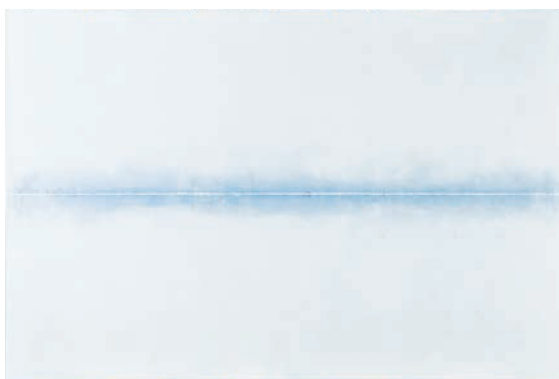
3



4



5



6



7

1.《遺されしものへ'07月行ー》2007年 2.《遺されしものへ'08迪・月光ー》2008年 3.《とべない貝》1985年 4.《山帰来6》1972年 5.三原捷宏《混》1995年 6.田谷行平《故郷のまち》2024年 7.木下坦江《惜夏II》2018年

会期内イベント

● 講演会

「木下和を語る」

講師／田谷行平(画家、新協美術会理事)

三原捷宏(画家、一般社団法人日洋会顧問・理事、
広島市立大学名誉教授)

寺本泰輔(元呉市立美術館館長、比治山大学名誉教授)

日時／10月6日(日) 14時～15時

場所／泉美術館 ※展覧会チケットが必要です。



アクセス

- JR山陽本線「新井口」駅より徒歩約15分
- 広電宮島線「草津南」駅より徒歩約10分
- 駐車場無料(エクセル本店駐車場をご利用ください)

公益財団法人

泉美術館

〒733-0833 広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階

TEL:082-276-2600 FAX:082-276-2612

<https://www.izumi-museum.jp/>

